

亀井静香の

政界交差点

賭

け麻雀で辞任した黒川弘務・東京高検検事長の司法修習同期で、ともに検事に任官したのが佐々木知子である。

佐々木は98年の参院選で、政界史上初めて、現役の検事から直接国会議員に転身した。

俺は、彼女の擁立には反対だった。当時、自民党の比例区候補者は「党員2万人、後援会名簿100万人」という最低条件が課されていた。しかし、男女1枠ずつ設けられた「総理枠」という特別枠の候補者にかぎっては、そのハードルが免除される。この選挙のときの男性枠は有馬朗人元東大総長で、女性枠が佐々木だった。

「総理枠」の存在を簡単に許容してしまえば、必死になって党員獲得に励んでいる者のやる気が損なわれる。俺は総務会でこう反対した。

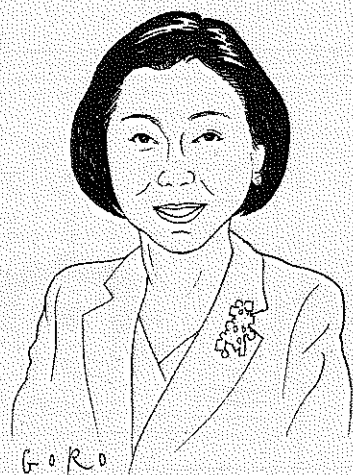
特別枠があるか！ 女性で検事というだけでパフォーマンズで出馬させるのは反対だ」

森山眞弓元文相も俺の意見に同調してくれたが、村上正邦や与謝野馨は、彼女をスカウトしてきた手前、どうしても入れたという。村上のしつこさに根負けした俺は、「勝手にしろ」と言い残して席を立ち、結果的に佐々木の総理枠擁立が決まった。

当時の比例代表選は拘束名簿式だ。あらかじめ政党側で候補者の順位を決めていた以上、総理枠であれば選挙運動をしなくても誰でも勝つことができた。選挙が終わって総務会室で一息ついていると、一人の女性が

絵／佐々木悟郎

第65回 佐々木知子

黒川と検察同期だったが
生き方は正反対だった

G・R・O

本はよくならない。立法院たる国会に、法曹である自分が入って社会をよくしていきたい」というのが転身の動機だった。

俺も警察官僚出身だ。社会のゴミ掃除ばかりしても一向に社会は変わらない。手取り早いのは社会のゴミを出させないようにするんだと決心し、政治家に転身した。

俺と佐々木は似ている。佐々木の志に共感した俺は、擁立に反対していたことを詫びて、仲間として迎え入れることにした。佐々木と俺は同じ広島出身の同郷。たいそう可愛がってやった。

法

務部会では、先輩議員に物怖じせずに意見をはっきり主張していた。03年、死刑廃止を推進する議員連盟の会長をしていた俺は、死刑廃止法の議員立法に向けて年内の法案提出を目指していたのだが、そのとき、佐々木が法務部会で演説をした。

「元検事として残酷な殺人現場に何度も立ち会ってきました。地獄の苦しみを味わった被害者遺族に、死刑以外でどう償うのか！」

俺は斜向かいに座って聞いていたが、飼犬に手を噛まれたような気持ちだった。彼女はその後法案の批判を続け、結局法案は廃案となってしまった。派閥の長であり、面倒を見てもらってきた俺に喧嘩を売ってでも、堂々と自分の意見を主張し続けるのだ。なかなかできることではない。

そういう意味で、佐々木は検事同期の黒川と対照的である。黒川のことは俺もよく知っているが、誰彼構わず相手の懐に入る男だ。政権に評価されたのは、その距離感の巧みさゆえだろう。

佐々木から、黒川について聞

堅

イメージの法務官僚が、こう気軽な姿勢で寄ってくれば、政治家も「こいつは話せる」と錯覚してしまう。俺ともそんな感じでは、その政治家からの評判も良かった。余計な敵を作らないことで順

声を掛けてきた。

「亀井先生、今度参議院議員になった佐々木知子です。よろしくお願いします」

これが件の佐々木かと思った。プライドが高く鼻につく奴かと想像していたが、そんなことはなく、人なつっこい女性だ。背も高くスタイルも良く、おまけに頭が良く、異性を感じさせないサバサバしたところもある。テレビドラマ『ドクターX』における米倉涼子のような雰囲気である。多才な女性で、ピアノの演奏はプロ級のうえ、検事時代からペンネームを使って小説家としても活動していた。

そ

んな優秀な女性が、なぜ検事を辞めてまで国会議員になったのか、疑問だった。黒川、佐々木の検察同期には、林眞琴（現・東京高検検事長）や東京地検特捜部長を務めた佐久間達哉、メディアで活躍中の郷原信郎や若狭勝と、多彩なメンバーがいる。

佐々木に聞けば、検事時代は「政治は汚い世界」という認識しかなかったという。しかし「政治が汚いと嫌がるだけでは、日

調に歩を進めてきた黒川にとつて、今回の人事騒動とその結末は、想定外だったはずだ。数居の低さが、結果的に墓穴を掘ってしまったのだろう。

佐々木はわずか1期で議員を辞め、今は弁護士として道を歩んでいるが、永田町を去るときに振る舞いには驚かされた。

「政治活動費が余ったので、これを志帥会（亀井派）の政治活動に使うてほしい」と申し入れてきたのだ。

この当時は、政治とカネの透明性確保が叫ばれていた時期だった。平成研（旧橋本派）が日歯連から1億円の小切手を受け取りながら、収支報告書に記載せず、会計責任者が逮捕された。ほとんどの議員は真面目に政治活動で使っていたはずだが、世間一般から見れば不透明で、疑惑を持たれても仕方がない。

しかし、議員を辞めるとき、政治活動費を返してくる者など、それまでの一人もいなかった。これこそが、1期のみの任期だったが、政界に遺した佐々木知子流の政治だったのだ。

佐々木が検察のトップに君臨していたら、とふと思う。